

26年7月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
仕入動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	14.3
	外材製材品	△ 7.1	△ 21.4	△ 7.1
	構造用集成材	8.3	0.0	0.0
消費動向	国産材製材品	14.3	△ 7.1	21.4
	外材製材品	0.0	0.0	21.4
	構造用集成材	25.0	8.3	16.7
在庫動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	外材製材品	△ 14.3	△ 14.3	△ 28.6
	構造用集成材	0.0	△ 8.3	△ 8.3

国産材製材品の仕入れは7月のやや増加が8月のやや減少を経て9月には増加に、外材製材品は減少傾向で推移、集成材は7月の増加が8、9月には横ばいに。

国産材製材品の消費は7月の増加が8月のやや減少を経て9月には増加に、外材製材品は7、8月の横ばいが9月には増加に、集成材は増加傾向で推移。

国産材製材品の在庫は7月のやや増が8、9月には減少に、外材製材品は減少傾向で推移、集成材は7月の横ばいが8、9月には減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
受注	21.4	7.1	14.3
加工	42.9	7.1	14.3
受注残	7.1	7.1	7.1

受注及び加工は増加傾向で推移。
受注残は7、8月のやや増加傾向で推移。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・全体的に値段が弱いため仕入れは、当用買い。全体的に消費ボリュームが上がってきているが、迫力に欠ける。適正在庫をキープ。
- ・今月から各樹種とも下落傾向。国産材使用量拡大中。在庫はやや減少傾向。
- ・国産材、特にヒノキの価格が引き続き下落。

(受注動向)

- ・7月は比較的物件が入ってきているが、8、9月是不透明。
- ・基礎資材・人員に限りがあり、受注・加工は順調に推移するも出荷遅れている。
- ・増税後、相変わらず地元工務店は苦戦。
- ・受注及び加工とも6月が最低だった。